

平成19年度 第3回豊田市スポーツ振興審議会 会議録

日 時： 平成20年3月14日(月) 午前10時～11時50分

場 所： 豊田市役所南51会議室

出席者： <委 員> 小幡 銀伸 (豊田市体育協会会長)
鈴村 幸雄 (豊田市体育指導委員連絡協議会会長)
神崎 恭紀 (豊田市小中学校長会代表)
岩月 富士雄 (豊田市身障協会体育部長)
手嶋 道雄 (豊田市スポーツ少年団本部長)
平林 栄子 (スポーツ指導員代表)
北村 幸子 (女性スポーツ団体協議会会長)
狩野 正人 (トヨタ自動車人事部スポーツ・イベント健康推進グループ長)
大内 光子 (学識経験者)
中野 幸彦 (学識経験者)
中川 淳 (市民公募)

<事務局：豊田市教育委員会>

笠井 保弘、梅村 孝志、山崎 隆弘、近藤 保之
加藤 東、柴田 康宏、大嶋 守、坂井 京子

- 次 第
- 1 会長あいさつ
 - 2 教育委員会あいさつ
 - 3 協議事項
 - (1) 旧合併町村地区の施設整備方針(案)について
 - (2) スポーツ施設整備事業について
 - 4 報告事項
 - (1)平成20年度当初予算(案)の概要について
 - (2)スポーツ施設の事故等について
 - 5 その他

議事等の摘要

1. 会長あいさつ

2. 教育委員会あいさつ

3. 議題

(1) 旧合併町村地区の施設整備方針(案)について

事務局：資料に基づき説明(資料1)

会 長：この案で委員の承認がここで必要か。20年度からのプランの策定と合わせてでよい
か。

事務局：18年度に答申をいただき、19年度現地確認、利用状況を踏まえての案として提出させていただいた。整備スケジュール等も動く状況にある。今日は承認ではなく、案に対してのご意見を伺いたい。

委員：医療用ヘリポートが小原みどりの公園グラウンドと新聞に出ていたが、計画案との調整はいいか。

事務局：小原と足助にドクターヘリポートを設置するため、すでに着手されている。小原は緑の公園の広場を活用。点滅ランプが可動式のもので支障はない。足助は足助消防署敷地内常設を設置している。

委員：藤岡のふれあいの館の活用はどうか。卓球の利用ができると思うが、この計画には、入らないのか。

事務局：旧藤岡町時代、処分場整備の際に地元への施設として整備されたもので、バドミントン・卓球の種目程度の面積しかない。舞台もあり、多目的施設と捉えている。市としてはスポーツ施設としての位置付けはしていない。

委員：藤岡第2中学校が建築されるが、それに合わせて地域体育館の配置も考えられるのではないか。

事務局：既存の体育館は、位置づけを検討する必要がある。機能が伴っているかの議論が必要。当面は、利活用を考えている。老朽化施設については、廃止・解体も視野に入れてやっていく。今後の検討課題と考えている。

委員：障害者が施設を利用する機会が増えてきた。特に便所が困っている。障害者用の施設整備の際は便所を考えてほしい。

事務局：市は整備する方針で対応している。

(2) スポーツ施設整備事業について

事務局：資料に基づき説明(資料2)

委員：藤岡に広場は多くあり、野球場は充足している。サッカー場が不足していると思うが。

事務局：野球はチーム数が非常に多く、大会日程が消化できないなど運営で困っている。

藤岡だけを捉えた場合充足しているように見えても、豊田市全体の利用からすると施設が不足していることをご理解いただきたい。

会長：軟式野球連盟の会長もしていたが、豊田市は野球のチーム数が日本で一番多く、試合も1,000試合を超えているのが現状であることをご理解いただきたい。

委員：同じところで、野球だけではなくサッカーができれば問題は無いと思っている。

事務局：今後の計画に活かしていきたい。

会長：四郷のマレットゴルフ場はどうか。

事務局：P & R計画のため移転を考えている。現在の場所は駅利用者の駐車場となる計画で、地元や他部署との調整を図り近隣の場所で基本設計をしている。

会長：広場は市内に全部整備でき、終了ということによいか。

事務局：若園運動広場、梅坪台運動広場が完成すれば整備終了となる。

会長：体育館は、どうか。

事務局：豊南、五ヶ丘・松平の地区が残っているが、用地が定まらないため具体的な計画が進んでいない。足助と藤岡はこれから計画していく。

4. 報告事項

(1) 平成20年度当初予算(案)の概要について

事務局：資料に基づいて説明(資料3)

委員：地域スポーツ施設大規模修繕で足助プールの整備があるが、現状の施設を今後どのようにするのか。できれば体育館に併設された温水プールの整備を希望したい。

事務局：この事業は20年度で初めて取り組むもの。施設整備計画と整合性をもって取り組みたい。整備できるものは整備していきたい。

委員：修繕したため整備・新設が検討されないということはないか？

事務局：学校プールの利用もあり、現在危険なため、緊急性が高いという判断で対応するものと考えている。

(2) スポーツ施設の事故等について

事務局：資料に基づいて説明(資料4)

会長：3月28日の調査委員会の報告を待って、原因がわかるということでもいいか。

事務局：その方向である。

会長：スタジアムスタンドの「ゆれ」についだが、弾力性があるからこそ衝撃を吸収できていると私は思っている。今後 専門家に聞いてみる。

事務局：法律の基準に従って点検をしているが結果は問題ないと聞いている。当然、設計で構造計算がなされている。当日は、指定席に3倍の人が集まり、その中での行動であったため、今後は人の収容規制も考えて取り組む必要があると考えている。

5. その他

会長：その他として、何かあれば。

(委員から提案)

委員：スポーツ振興審議会への提案事項の説明(別紙参照)

将来中学校に武道が必修科目となる見込み。人間形成に役立たせることができるため幼・保・小でも検討してほしい。

地域の核となる施設整備(地域にあった施設整備、地域にあったスポーツクラブの育成など) トヨタ自動車やグランパスなどアスリートとの交流、豊田市から一流の選手を輩出といったシステムづくりなど

メンタルヘルス、ストレス発散の手段としてのスポーツの活用、合併の利点を活かした自然と一体となった施設整備など

会長：委員の提案について意見は。

委員：剣道では指導員の養成をしており、各小中学校の部活動に人材の派遣を考えている。

会長：アスリートとの交流では中京大学は良い人材が多くあると聞いている。またトヨタ自動車は社会人野球で社会人大会トップの成績を収められた。ハードだけでなくソフト

の面で盛り上げてほしい。

委員：地区スポーツクラブでは現在 11 のスポーツクラブが活動しており、専門の支援組織が必要であるとの提案を私も事務局に提出しているが。

事務局：スポーツ課への提案という形でいただいております、審議会という理解ではなかったため失礼してしまい申し訳なかった。今後、内容を事務局で整理した上で審議会への提出、報告等を検討したい。

会長：提案は今日のように事前に申し出てもらうと良い。これからは是非出してほしい。

事務局：スポーツの振興を三角形で考えると、底辺を広げ、頂点を高くすることにより三角形は大きくなり、振興が図れると考えている。下山は日本一のオリオンテレーリング会場を持っており、旭は関係者に言わせると世界に誇れるカヌー場といった恵まれた環境にあり、活用していきたい。

委員：トヨタ自動車でも今年度のボールゲームフェスタの継続版として選手との交流について来年度も協力の方向で考えてもいる。

委員：スポーツクラブ自体、まだまだ能力を持っていないため、スポーツクラブを支援する会が必要ではないかと思う。

委員：指導者不足が否めない。中京大の単位制度などの検討も出されるが、やはり年数がかかる。一般の人の掘り起こしが必要で、初心に帰ってスポーツ指導者養成講習が底辺を広げることとなると考える。

事務局：現在の生涯スポーツプランは、平成 13 年 3 月に作成し 10 年の計画であった。この間、市町村合併もあり、今回は合併施設の審議をお願いし方針の意見をもらった。次期プランへの足がかりとしたい。サブホールが建築基準の構造計算の確認が遅れている関係で竣工が少し遅れる見込みとなった。時期は未定だがご理解願いたい。